

分科会 6 誕生、スポーツファーマシスト ドーピング防止活動に薬剤師職能を活かそうー

W-06-05 スポーツ界からの期待

まじま まこと
馬島 誠

2010 バンクーバーパラリンピック アイススレッジホッケー日本代表

2010年3月、バンクーバーパラリンピックにおいて、アイススレッジホッケー日本代表として参加し、準決勝で地元カナダを破り、銀メダルを獲得することができました。これは皆様方のご支援による賜物であり、選手一同、心より感謝いたしております。

さて、パラリンピックもオリンピック同様に厳しいドーピング検査があり、選手、スタッフともにドーピングに対する意識は高くなってきております。しかしながら、障害者の場合には、日常的に薬を服用しなくてはならない者も多く、特にアイススレッジホッケーという競技においては、怪我する頻度が高く、健常者よりも「薬」にかかわることが多いと思われます。

パラリンピックなど大きな大会においては、大会前に、チームドクターもしくはトレーナーらの指導により禁止薬物の事前申請（TUE申請）を行ったり、薬剤師会に直接問い合わせをしたりなど、特に薬剤師の方々のご支援は非常に助かっている現状がありますが、今後もこのアンチ・ドーピング活動については、大会前だけに注意をするのではなく、日頃から常に高い意識で選手・スタッフともに取り組んでいかなければならない状況にあり、益々、薬剤師の方々のご協力、情報提供などが必要ではないかと感じております。

そのため、「スポーツ界からの期待」と題して、アイススレッジホッケーという競技の紹介や、パラリンピックで起こった出来事などを交え、今後のアンチ・ドーピング活動に対して、一選手として日頃感じていることをお話をさせて頂きたいと思ひます。